

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800644		
法人名	医療法人 社団 借新会		
事業所名	グループホーム錦		
所在地	三重県度会郡大紀町錦177		
自己評価作成日	平成24年12月27 日	評価結果市町提出日	平成25年4月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JivogyoCd=2472800644-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 1 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

漁業の町ならではの新鮮な魚介類が提供できる。また、一般家庭と隣接している為いつでも町内の方々とのふれあいが可能である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣の医療法人が経営する事業所であり、常に介護と医療が連携されている。昔からの漁港の近くにあり新鮮な魚介類が食事に出され、調理は職員が手作りしているので「いつも美味しいわ」と笑顔がこぼれている。職員も地元の方が多く独特の方言で会話を楽しみ、家庭的な雰囲気を作り出している。また、自分の事の様に思い、自分の出来る事を身を持って支援したいと毎日努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との共存を目指す事を理念とし、毎朝の申し送り時、理念を全員で読み上げ確認をしあう様にしている。また、職員採用時も説明をしている。	理念、「住み慣れた地域や環境の下で。。敬愛の心を持って接します」と元気な挨拶を交わすことによりいつも笑顔が生まれ、何事にも感謝の言葉を引き出している職員の心がけ(挨拶、笑顔、感謝)をスローガンとして毎朝全員で斉唱して共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加わり、回覧板、ゴミ収集場所の清掃、地域のクリーン運動参加等で、地域の人々との交流を図っている。	町の津波避難訓練、クリーン運動等に参加しており、管理者は行事の案内等を一軒一軒挨拶を兼ねて配布している。中高生の職場体験受け入れ、リハビリ体操の参加、また、ボランティアの受け入れ(気孔、詩吟、紙芝居等)等、数多く地域の方が来訪している。商工会から雑巾、排水を浄化する洗剤等も頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者に、ホームのリハビリ運動への参加の声かけをしている。また、認知症サポーターとなり、認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人に伝えるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間の取り組み内容も含め運営推進会議で出席者に、評価結果報告をし、意見をもらって、質の向上に生かせるよう心掛けている。	偶数月に年6回開催して今年で32回になった。町職員・包括センター・地域住民代表・利用者・家族と見識者に参加を依頼し、議題も数々取り上げられ意見交換がされている。今後は家族会を立ち上げ、より一層意見交換の場を広げる意向である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている市町村担当者に、日頃のサービス現状を見てもらいながら、その内容を積極的に伝える様にし、協力を得ている。また、町の福祉計画会後の報告会に参加し意見交換をしている。	運営推進会議で町担当者等に事業所の状況報告、町から利用者の受け入れ要請もあり、協力体制を築いている。また、町の福祉計画報告会に参加し、運営情報も協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの取り組みについて、マニュアルを整備し、全職員が認識を深められる様勉強会をし、施錠をしないケアをしている。	各職員にマニュアルを渡してあり、日頃、職員同士で読み合わせている。職員会議で毎月テーマを決め勉強会も開催している。言葉使いは方言で会話をするので利用者にはきついと感じる事があるが、その時は職員同士で注意し合っている。すぐ前が旧道であるが、玄関はいつも施錠することなく自動ドアは作動している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束廃止推進組織メンバーを決め、マニュアルを整備して町に提出した。定期的な会議にて勉強会をし、意識確認をした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町職員から知識を得た地域福祉権利擁護事業や、青年後見制度についての冊子を見やすい場所に置き、再確認出来る様になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容説明を充分に行い理解を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の言葉や態度からおもいを察して、問題点を見出した時は職員会議で話し合い、日々のケアに生かせるよう努めている。また、苦情受付担当者2名、第三者委員2名を設け、意見箱を設置し、意見は運営推進会議にて公表することを約束している。	運営推進会議の時や面会時、また、日常の会話の中で意見を聞くようにしている。意見箱も設置しているがあまり、投函がない。今後、家族会の立ち上げを予定している。	家族等は事業所・職員に対して感謝はしているが、意見・要望は出しにくいものである。事業所から積極的なアプローチや家族会を立ち上げ、意見・要望を把握する事を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は時として個別面談をし意見を聞くようにしている。全体会議では、意見や要望を聞くようにしている。	職員会議、また、普段のケアの中で職員と声掛けし把握する様にしている。最近では避難に備えて車椅子の増台、居室が2階なのでエレベーターの設置提案があった。	定例会議で出た職員の意見・提案を取り入れ吸収し、職員の現状を見極め反映させる努力、工夫を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は勤務状態の把握に努め、職員が向上心を持って働ける様資格取得等、希望に副える支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修を受講できるよう配慮し、職員の質の向上と意識強化に努めている。希望者にはシフトを組み、研修受講の支援をしている。全体会議で研修報告をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県連絡協議会に参加したり、地域の同業者と共にネットワーク作りや認知症サポーターとなり、また、町福祉計画会后、内容報告会での意見交換等で質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握する事や、本人に会って心身の状態を知るように努めている。また、利用者と職員の距離感を無くす様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のこれまでの苦勞を聞きだし、今後の相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、求められるサービスにつなげる様にしている。(入居など)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員の殆どが同地域の出身者であり、お互いが共通の話題等で分かり合える場面が多く、昔から地域に伝わる祭り、遊び歌を教えてもらう等し、和やかな生活を支援できる様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	不安を抱えている本人には、聞き取りでその内容を把握し、電話などで家族の来訪をすすめて、安心してもらえるよう接し、声かけを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くに買物や支払に出る時に誘い出し、顔なじみの人達とのふれあいが出来る様努め、また、地域の人達が来訪しやすい様に声かけをし、継続的な交流が出来る様努めている。	墓参りに同行したり、以前住んでいた実家を見に行ったり、散歩で地域を回り友人・知人とおしゃべりをしてくる。また、利用者・家族に了解を得て、事業所だより(顔写真入)を農協の掲示板に貼り、尋ねていただくように支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で多くの会話をもち、活動を通じて、利用者間の関係が円滑になるよう努めている。また、遠慮の無い会話が飛び交い時として争いになったりするも、利用者同士の関係を把握し、会話の中に入り円滑になる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	系列医への入院の為、退所となった利用者や家族には、継続的な関わりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声かけや会話などから、各人の意向等把握できる様に努めている。	職員は日々の会話・表情・態度の中で汲み取り、ケア日誌に記入し共有している。また、ケアマネジャーも直接ケアの場で声掛けし把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取るようにしている。本人自身の語りや家族の話などから、少しずつ把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、出来る事、解る力を本人の生活や全体の中から把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしく暮らせる様、本人、家族、スタッフと共に話し合い、要望や意見を取り入れ介護計画を作成している。	職員の意見を聞き作成した計画について、家族に意見・要望等を聞き、話し合っている。モニタリングは毎月行い、3か月毎に評価し見直しを行なっている、計画作成者は看護師を兼ねており、医療からの課題も取り入れられた計画書となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録簿に日々の暮らしの様子を記録し、その評価をし合い介護計画見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に応じ通院支援をし、また、墓参り、ふるさと訪問、外食等に随時応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して生活できる様、警察や消防、民生委員等との接点を持ち、意見交換が出来る機会を設けている。また、ボランティアの受け入れ、気功体操に参加したり、本人の希望に応じ、理、美容サービスを利用してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望するかかりつけ医との関係を築けるよう支援している。ホーム協力医受診は、職員が付き添う。	すぐ隣に経営母体の入院設備のある医院がある為、緊急時は安心である。かかりつけ医への受診は全て家族にお願いしているが、出来ない時は職員が付き添いで受診している。かかりつけ医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の看護師から、日頃の健康管理、医療面の相談、助言をもらい対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提出し、家族とも情報交換しながら、回復状況をしり、速やかな退院への支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と重度化した場合の話し合いを行っている。また、医療機関の協力を得て、意向に副った支援ができる様努めている。医師と職員が連携し、安心して終末期を迎えるように、随時意思の確認をしている。	重度化した場合における対応方針を、契約時に家族に提示し説明している。また、その状況に陥った場合は主治医・家族と相談し、話し合いながら対応策を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業主である系列医にて、AED使用方法や緊急蘇生法の指導を受けた。今後も学びの場を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害通報装置、煙熱探知機を設置し、通報等の勉強をしている。年2回以上、避難訓練を行い避難道路の確認も行っている。運営推進会議でも、近隣への呼びかけをし、協力を得られるようにしている。	防災管理者資格がある職員が中心となり、防災訓練を年2回実施している。以前大津波が発生した地域でもある為、まず避難と考え、利用者と夜間避難訓練も実施した。地域住民にも協力を得て避難時間・経路も把握している。消防署立会いの下、消火・通報訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝の引継ぎにも職員心がけを斉唱して、プライバシー保護の認識をし合い、ホーム便りも、本人、家族の了解を得る等、利用者の誇りや、プライバシーを損なわないよう配慮している。	個人情報の守秘義務について、職員会議でマニュアルを用いて勉強会をしている。トイレの誘導はそっと声掛けして、居室の出入りは必ずノックを心掛け、羞恥心に係る事は他人の前ではわからないようなケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、利用者の思いを汲み取る様にし、その中から本人が、出来る事、出来ない事を選択してもらえる様、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分に合わせて、一人ひとりの状態や、生活習慣に配慮しながら、希望に副って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にボランティアの美容師に来て頂き、ホーム内で、希望者には理容支援をしている。また、地域の美、理容店も利用できる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の用意は職員がして、下ごしらえや、味見、後片付け等、能力に応じて協力してもらい、会話を楽しみながら食事ができる様支援している。	食事は朝・昼・夜、全て職員が手作りしており、各職員に得意料理があり毎日腕を振っている。利用者に適している味付け・煮つけ等工夫しており、利用者も出来る事は役割を持って手伝っている。全職員と一緒に食事をし世間話をしながら楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の嗜好を聞き献立に取り入れ、食事内容、摂取量、残量等を記録し、職員が情報を共有している。夜間の水分補給も、各人が自由にできる様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア(うがい等)を行い、就寝前の義歯洗浄や、起床時の口腔洗浄は、一人ひとりの力に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表記入で、排泄時間や習慣を把握し、トイレ誘導等で、気持ちよく排泄できる様支援している。	現在は布パンツを使用している方が多いが、24時間排泄チェック表で声掛けし、トイレ誘導して見守りを行っている。夜間心配な方は紙おむつを使用しているが、出来る限りトイレでとポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫をし、乳製品や野菜摂取、水分補給等により便秘予防に心掛け、毎日の体操、リハビリ運動で身体を動かす様努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に副える様声かけをし、納得の上入浴を楽しんでもらえる支援をしている。	全員、午後から入浴をしており、入浴する順番を毎日変えるなど、個々に添った支援をしている。また、季節湯も取り入れ、柚子・菖蒲の香を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活のリズムを整える様にし、個々の表情や体調を考慮し、希望に副って休息が取れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が処方薬について、その都度説明をしている。処方変更や一時的な処方、全職員に分かるよう連絡ノートに記載し、全職員が確認チェックを行い、把握できる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域の行事を見学したり、花作り、水遣り、カラオケ等能力に応じ、得意分野で力を発揮してもらえる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節により弁当持参で戸外に出掛けたり、また、月の支払時等に、馴染の場所へ立ち寄れる様支援している。	買い物等職員の外出に同行したり、弁当持参で花見に行っている。花火大会、お墓参り、散歩で実家を見に行ったり、帰りに神社に参拝したりしている。常に外出の機会が多く取れるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり管理している中で、本人の希望があるときは、家族に相談の上、一緒に買物ができる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、その都度職員がダイヤルをし、家族との会話ができる様にしている。また、時として手紙の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の食材を取り入れた料理の匂い等、家庭の延長であるという事を感じてもらえる工夫をし、菖蒲湯、月見等を行い、また、フロアの飾りつけは、利用者と協力し合い、季節感を味わえるよう工夫している。	リビングには和室があり、ゆったりとやすらぎの居室となっている。台所は配膳準備室があり、利用者も手伝う場となっている。毎月の行事の写真が貼ってあり、時には季節に応じた飾り物がある。掃きだし戸からは海風が匂い自然な光は心地良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが、1階フロアまたは、和室にて自由に過ごせる様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意見を取り入れ、使い慣れたものを使用してもらったり、また、家族が持ってきてくれた写真や、誕生会の写真やメッセージを貼る等の工夫をしている。	ベット・筆筒が備えられ、仏壇に毎日手を合わせる方、また、写真(家族、誕生会など)を飾られている方もいる。掃除が行き届き、清潔感のあるスッキリとした過ごしやすい居室であると家族からも喜ばれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1階生活空間にトイレがあるが、あえて一般住宅らしく生活してもらえる様、目印をつけず声かけで対応している。夜間利用する2階のトイレは、自力で排泄できる様目印を付け、自立へ向けての支援につなげている。		